

苗冷蔵によるシュッコンカスミソウ新作型への取組み

1. はじめに

西牟婁地域の切り花は、約67ha栽培されており、うちシュッコンカスミソウは田辺市を中心に海岸線から山間部にかけて21haが栽培されている。

2. 苗冷蔵への取組み

シュッコンカスミソウの植付け時期は、8月下旬から9月上旬に集中する。当地方では水稻の収穫、或は果樹（ミカン）との複合の場合労力的な競合、また、台風、長雨等に遭遇するなど植付けが遅れ、苗が老化気味になる場合がある。

その対策として、苗を低温保存することにより植付け時期に余裕ができる。また、①定植後の初期生育が旺盛で開花が早まる。②生育の揃いが良く切り花始から終了までの期間が短くなる。③開花揃いが良く、集合花（団子花）の発生が軽減される等秀品率の向上が期待できる。

3. 新しい作型への展開

J A紀南管内のM氏は、標高380mと紀南地方でも高地で、栽培しているため、どうしても平地に比べ開花時期が遅くなる。このようなことから平成7年より苗冷蔵の特性を活かしたシュッコンカスミソウの栽培に取り組んでいるので紹介する。

1) 育苗

親株を5月上旬に購入しポットに定植、5月下旬にピンチ、この時期より順次9月までさし芽を行った。鉢上げは約20日前後で行い、鉢上げ後15～20日間育苗し、冷蔵庫に入れた。

2) 冷蔵処理

コンテナへいれて7段程度積みポリフィルムで全体を覆う。このとき水分調整策としてコンテナの周囲をダンボールで囲んだ。

冷蔵温度は2℃とし、照明は行わず、入庫15日程度で1度庫外に出し、2～3日置き再び入庫し全冷蔵期間を40日程度とした。

3) 定植

作型は、図に示した2つのタイプをとった。
Aタイプ：8月中旬～9月中旬に定植、1番花採花後、新たに冷蔵苗を定植する。
Bタイプ：従来型で9月下旬～10月中旬に定植、1番花採花後刈込み2番花を採る。

4. 結果と今後の課題

8月中旬の高温期の定植でも、初期生育が旺盛で開花が早く、良質のものが出来た。

今までの面倒な芽の整理作業が不要になり省力化がはかれる。

今後の課題として、1番花の採花本数を確保するための植付け間隔、また、1番花の終了時期と、2回目の定植苗のさし芽時期のタイミング等検討が必要である。

(西牟婁地域農業改良普及センター)

